

# 介護家族ゆとりの会

生野区介護家族 ゆとりの会 が活動を再開しました！



通称生野区介護家族ゆとりの会は、妻がアルツハイマーになり、介護で苦労された故南栄さんが、会長をつとめられ活動してされました。

平成5年まだ身体拘束が当たりまえ、「恍惚の人」「痴呆症」といわれる病気の理解のない時代に、2ヶ月に一度家族が集まり、言うに言わぬ苦労を交流してきました。

## —わたしの認知症介護—

遙洋子さん熱演 4月21日

記念講演には、午後7時の開演を待ちきれず2時間前からこられる方も。開演を待たず会場は満員に。司会の水野世話人の開会あいさつに続き、西脇代表世話人からは、自らの父親の介護体験をまじえた訴え、活動再開の協力と会の入会のお願いがありました。

講演会は、タレントの遙洋子さんが、「私の認知症介護～仕事と介護と恋愛と～」をテーマに熱演。自らの父親、母親の介護体験を1人娘として、女性としての立場から、切々と語られました。わがままできた父親と母親の関係性が介護にも反映する事。オレが親を見ると、ええ格好の兄たちと、歯ぎしりしながら辛抱する兄嫁たち。認知症が理解されずに縁談をぶちこわしてしまった父親の話。苦労しすぎた結果人につらくあたりすぎる母親と理解してくれたヘルパーさんとの出会い。涙と笑いの中にも、ドキッと考えさせられる密度の濃い時間をすごすことができました。

平成18年12月南会長の急逝により一時休止していた会を、今の時代にあった家族会として再開しようと、当時の世話人らが昨年から相談をしてまいりました。

記念講演会には、タレントで介護の体験も本にされている遙洋子さんをお招きしようと話し合ってきました。遙さんには、こころよくお引き受けいただき本当にありがとうございました。

